

・・・雨でも休まず、240回、241回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1、7月6日(第一日曜日):小原本陣の森、担い手育成・技術向上
参加費400円。

*協働活動 7月13日(第二日曜日):孫山景観周遊路開削、相模原市と協働
参加費無料、弁当持参、参加費なし

定例活動2、7月20日(第三日曜日):若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
参加費400円、主食、自分の食器(副食になるものを作る)

- ・初参加:9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
- ・服装:汚れても良い服装、着替え、白っぽい長袖(すずめ蜂対策として)、滑らない足元
- ・持参品:成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、自分のお椀と箸
- ・注意:危険管理・救急体制他、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

NPO活動・・・熱い心と、冷めた頭

“熱い心と、冷めた頭”・・・先の国連難民高等弁務官を務められた、緒方貞子さん(J.JICA理事長)の言葉です。

国連難民高等弁務官事務所・NPO法人UNHCRで働く人々は、飢餓と弾丸の飛び交うアフガンやアフリカの紛争の地に飛び込んで、事態を解決するために奔走しています。生命の危機に晒されながら、人の命を救うために熱い心を持ち続けています。そして常に、冷静に状況を見極めて判断を下さねばなりません。

森林NPOである当会の場合はどうでしょうか。森林を守らねばならないと言う“使命感:熱い心”と言う意味では、人後に落ちない自信はありますが、飢餓も生命の危険もない安全な場所で“冷めた頭:判断”と言う点からはどうでしょうか。自分の価値観だけで、気分の赴くままに行動していないでしょうか。自分だけの尺度の正義感や価値観を他人に押し付けていないでしょうか。

当会活動は、11年目に入って少しは世間に知られる活動にはなっています。然し、“冷めた頭で判断を下す”と言う意味では、未だ、到達点は遥か彼方であることは、認めざるを得ない状況にあると思います。環境問題は、いよいよ、ますます、“冷めた頭”で行動する判断力が求められています。

(石村記)

小原本陣の森・活動報告

6月1日（第一日曜日）

報告：Forest Nova 所属 1年 神宮 理沙

朝、みんなが集まって準備体操を行った後、前進基地まで上って一休み。晴れていても森の中はひんやりと涼しく、気持ちのいい日でした。

前回までの活動で作ってあった経路を登っていると、階段の幅がとても広く傾斜が急で、「きついなあ〜」という感想が多く出ました。（確かに登るのは大変で、下る方は滑るのもっと大変でした。）作業は一般の方と Forest Nova とで別れました。

Forest Nova は佐々木さん指導の下で作業を行いましたが、小原初参加者が多かったため役割分担をすることができず、午前中は作業がなかなかはかどりませんでした。前進基地に戻ると、朝に別れた一般参加の方々と合流して一緒に昼食をとりました。

午後学生は引き続き経路作りでした。ここからは木を伐倒して杭を作る人と、階段を作る人に分かれ、登りやすいように傾斜を緩くするよう心掛けての作業でした。掛矢の扱いにはコツがいるようで、力自慢の学生は思いっきりたたいていて、とても疲れてしまったようです。緑のダムの方がたたくと、そんなに力を入れているようには見えないのにすんなり杭が入って行って驚きました。

3時ぎりぎりまで行い、階段を十数段作って作業は終わりになりました。

山を下ってほかの方々と合流し、最後に反省会を行い、今回の活動が終了しました。



.....

—昨年9月、学生連合 Forest Nova が「森林を教えて欲しい」と訪ねてきた。喜んでと言う事だが、何やかにやで昨年4月から正式の参加となった。月次ニュースレターにも Forest Nova 欄を設けたが、この学生たちは実に真摯に森に向かっている。今月は早稲田大学の学生が19人参加したが（7ページ目記載）1年間で初参加者を指導できるまでに成長している。

この投稿は、試みに4年生の加藤学生を指導員として、1年生の2名に投稿をお願いしたのだが、神宮さんはういういしく、廣石さんはシッカリと、二人とも好感の持てる文章を送ってくれた。当会の活動は、学生参加が特徴で、彼等が環境問題に真剣な事が、頼もしく嬉しい。（石村記）

* 関連報告 1：孫山景観周遊ルート開設：6月8日（第二日曜日）
（小原宿活性化推進会議・協働事業）

“小原本陣の森”の孫山から小原本陣まで景観ルートを開くため、相模湖総合センターの職員2名と距離の計測と下山道の凡その設計を相談しながら下った。



* 関連報告 2：相模原市立・桂北小学校との森林活動

2年前、環境教育に熱心な板倉先生との交流が始まって、桂北小とは何かとご縁がある。昨年
から取り組んでいる「森づくり・モノづくりコンテスト」でも沢山の子供達から応募があって桂北
小には感謝状を差し上げた。

6月6日、以下のようなメールが入って
いた。

「はじめまして。私たちは桂北小学校の
4年生です。私たちは、現在総合学習の
勉強で相模湖の自然を調べています。
パソコンで調べていたら「緑のダム」の
ホームページを見つけ、たいへん興味を
持ちました。出来たら私たちも参加した
いのですが、可能でしょうか。お返事下
さい」

10日、国交省との甲州古道の話し合
い後、桂北小学校を斉藤会員と訪ねた。
丁度お昼給食時間になったが、4年生の
子供達と一緒に昼を食べて行って下さ
いとの事で、ご馳走になって一気に仲良



しになった。6年生クラスでは既に、“小原本陣の森”で観察会をしていると言う事で、斉藤会員が担任の佐藤先生と活動の現場を見に行った。こんな事で、桂北小学校との交流はますます、深くなって行く。

思い出せば9年前、桂北小で森林広報をしたのだが、当時の担当の先生は「森は暗くて怖い場所だから行ってはいけません」と子供に言った。また、地主が分収林契約したため、県から問答無用の追い出しを食らわせられたこともある。これは何もケシカランと言っているのではなく、あれから10年、環境に対する考えが一変したと言いたいのだ。今後10年、森林の保全活動は、どんな変貌を遂げるだろうか。この4年生も10年後は大学生。この子たちは、環境保全の一線に立って活躍しているだろう(石村記)。

若柳嵐山の森・活動報告2：6月15日(第三日曜日)

報告 伊藤小夜子

* 若者の森にカンパイ！ *

梅雨の晴れ間の一日、若柳の森は若者の元気な姿でエネルギー湧刺！！。アチコチに若者の姿が見えてキャンプのようでした。参加者：会員18名、アルプス技研5名、望星高校19名、学生連合フォレストノバ19名、宮上小・金山校長先生率いる早稲田大学19名、県の便り参加6名、神奈川県と相模原市の職員4名、計91名。

若竹のような望星高校生グループは、3ヶ所で活発に活動、午前中は望星の森の下草刈り午後は、地主さん(鈴木史比古さん)のブルーベリー果樹園でもぎ取りのお手伝い。“好きなだけ、食べても良いよ”、で高校生は大喜び。小原本陣の森の地主さんの中里さんも応援に駆けつけて下さった。

このブルーベリー畑は以前、会で借りて雑草取りに悪戦苦闘したのだが今は、ガーデンブルー、シャープブルー、デウクの三種類が整然と美しく。ここは森と違って空の外は何もない。広々としたブルーベリー畑は若者とマッチングしていた。初めてのブルーベリー狩をした。



「自然に触れることがなかったので毎回毎日が新鮮です(福原)」

「竹を伐る体験、とても嬉しかったです。何より都会に住んでいるので山に入ると言う事で緊張していましたが、とても気持ちよく、普段味わえない癒しを感じました(斉藤)」

畑の次は望星高校・七夕祭りのための竹取りへ行く途中、こんもりした小森の中のお社(やしる)の側で石村さんが「このお社にお願いしたら必ず希望の大学に進学できるよ」と言ったら、神妙に真剣にお願いする3年生たち。クールな1年生たちは未だ、先の事と対照的。

竹藪からは豪華な孟宗竹を大声で引きずりだしていた高校生たち。

一方、若駒のような早稲田大学組はグループに分かれ午前は、森林の基礎知識の体験、午後は伐採体験。ご指導ご鞭撻は、この1年でスッカリ森林をものにした学生連合Forest Novaの学生諸君。早大生引率の金山先生(相模原市立・宮上小校長)の激が森に響いていた。

この日、通常総会後の懇親会にもNova学生等が合流して盛り上げてくれた。楽しかった！。

* 相模原市・橋本に本社のある(株)アルプス技研 との交流

(財)オイスカのご紹介でCSR(企業の社会的責任)のテーマを環境問題において、真剣に取り組んでいると定評のある同社が初参加した。参加者は噂に違わぬ熱意で、活動にタチマチ溶け込んでいた。



活動終了後の話だが、担当の秋吉さんは「この活動に納得しました。貴会とどのように交流するか早い内に話し合しましょう。初めての参加でしたが、今日の活動状況を当社のホームページに掲載して良いですか」と言う事になった。ホームページ掲載はもちろん、異存ないし「今月末27日は、どうでしょうか」と言う事で横浜在住の丸茂会員、川田会員に同行してもらう事にした(石村記)。

報告：第六期・通常総会：6月15日(第三日曜日)

報告 事務局

活動開始から11年目、法人にして6期目の通常総会は、6月の「若柳嵐山の森」定例活動終了後、午後4時~5時15分、川田会員を議長に選出して、相模湖交流センターで開催し、全てを承認して有意義な総会になって閉会した。

第六期・通常総会の内容概略

事業は引き続き3本の柱(森をつくる、都市とつなぐ、森をいかす)、6本の事業(小原本陣の森、若柳嵐山の森、甲州古道復活、緑のダム体験学校、県産材活用、森林広報)は、順調に推移し、第六期も引き続き積み上げることを採択した。

・ 2007年度事業報告、収支決算

収支決算

収 入	10,786千円
支 出	10,535
収支差額	251
次期繰越	4,179

・ 2008年度事業計画、収支予算

収支予算

収 入	9,390千円
支 出	9,275
収支差額	115
次期繰越	4,294

・ 2007年度、主な成果

- 1 相模原市・若葉祭り初参加
相模原市との交流深まる
- 2 F S C 第一回維持審査通過
- 3 (社)国土緑推会長賞・受賞

・ 2008年度、主な目標

- 1 小原本陣の森、生産林の可能性を探る
- 2 小原尾根・孫山景観ルート開削
- 3 森林と都市をつなぐ：川崎森の入り口拠点づくり
- 4 相模川流域をつなぐ：緑のダム湘南の森、挺入れ

・ その他の案件：

「かながわボランティア基金21」終了後の対応

イ) 資金源の開発：森林事業の開発、支援団体の開発

ロ) 効率の高い費用使途の追求

北鎌倉便り

報告：緑のダム北鎌倉 代表 兼松まゆみ

久しぶりの北鎌倉からの報告です。

梅雨の合い間の快晴が続いた昨日、鎌倉のメンバーで、竹灰づくりに勤めました。皆さん、暑い中お疲れ様でした。お陰さまで、とても良い灰が出来ました。実は、われ等の竹灰がちょっとした話題になっています。イベントでも良く売れていましたが、花や野菜がとても良く出来るので分けてとりピーターの声。

今月15日の相模湖での活動に炭の専門家が参加していらして、竹炭について聞いたところ「今環境の悪化が酷く、雨もかなり酸性化が進んでおり土に力がなくなっています。竹炭は、酸性化した土を弱アルカリにし、更にマイナスイオンがすごく土の浄化力をアップするので、土がとても元気になるんですよ」と励ましてくれました。山から出た資源をこんなパワフルなものに出来たとは嬉しい限りですが、もう一つ嬉しいことが起きました。

食政策センタービジョンの安田節子女史からお電話を頂き「日本有機農業研究会の有機農業ネットワークかながわの農家につなぎたいので宜しく」とのことです。その内、農家から支援に見えるそうです。

現在、緑のダム北鎌倉では東慶寺の山の手入れをしています。蜂が出るまで浄智寺との間の尾根にビッシリ生えたアズマネ笹を地際から切って、見晴らし風通しを良くしています。何しろ3,4歩先が誰だか分からないくらいです。この作業は台風までに間に合うかな。

学生連合・Forest Nova：活動報告

Forest Nova オリエンテーション開催

報告：Forest Nova 所属1年 廣石 由美

5月30日金曜日に、ソレイユさがみのセミナールームにてForest Nova のオリエンテーションが行われた。麻布大学以外にも、武蔵野大学、東京農業大学、青山学院大学、法政大学、創価大学、関東学院大学、武蔵工業大学の学生たちが多く訪れ、合わせて20人ほどの学生が参加した。

まず、学生同士の交流を深めるため、アイスブレイキングを行った。今回はある動物が描かれている絵をそれぞれ学生の背中に貼り、相手と質問しあいながら自分の背中の動物が何かを当てるといったもの。



これを行うことで初対面の学生同士の雰囲気が緩和され、良い交流になった。

次に、麻布大学のForest Novaのメンバーによる、現在の日本の森林の状況と間伐についての説明が行われ、そこからForest Novaの活動理念と、今までの活動状況の説明が行われた。その後、森林についてのクイズも行われ、最初の森林説明の復習にもなり、より森林の知識を得ることができたようだ。

最後に、Forest Novaの『森をしる』、『森をつくる』、『森をいかす』、『森をつなぐ』の分野に分かれ、ブースごとにそれぞれ説明を行った。ここでは各分野の活動内容や目的の説明が行われ、皆興味深く話に耳を傾けていた。

早稲田大学生とのウォークラリー

報告：Forest Nova 所属1年 廣石 由美



6月15日日曜日に相模原の嵐山で早稲田大学生とのウォークラリーが行われた。

これはForest Novaのメンバーが早稲田大学生と共に嵐山を歩き、自然を感じながら森の素晴らしさを学んでほしいという目的を持ったウォークラリーである。さらに森林問題の原因・背景と現状を説明し、森の役割と重要性を学んでもらった。

午前中は4チームに分かれてそれぞれ嵐山を散策し、植物観察や、森の現状、間伐についての説明を行った。

午後には、チームごとに実際に間伐を体験してもらった。各チームのリーダーがサポートしながら、

木に切り目を入れ、木を倒すまでの作業を行った。かかり木というハプニングも起こったが、無事に作業を終えることができた。

また、早稲田大学の人達との交流も広がり、オリエンテーション後には多くの学生が、様々な知識を得ることができ、また森林や自然の重要性を学ぶことができ、これから生かしていきたいと答えてくれた。

甲州古道（甲州道中）を案内

（神奈川県企画部・水資源対策班）

報告 齊藤 憲弘

5月15日久々に甲州古道を、小仏峠から歩くことになってしまいました。というのも、神奈川県土地水資源対策課が事務局を担当する“水源地域交流の里づくり推進協議会”のポータルサイト「神奈川やまなみ五湖ナビ」の取材のためでした。当日は、小仏城山まで相模原市職員に案内してもらい、ラッキーなウォーキングでした。上野原の山野草にも詳しい井田先生にも同行してもらい、楽しい自然観察道中となりました。

小仏城山の茶店でコーヒーを一杯飲んで出発しようとしていたのですが、その山頂からの眺めの良さに予定の時間は、最初から崩れるほどでした。それに、いたるところで井田先生の山野草教室が始まり、なかなか先に進めません。予定の藤野境までが藤野駅まででゴールとなりました。取材執筆者の小泉さんの熱意には驚かされました。

甲州道中の見どころや歴史を楽しく紹介してもらいましたが、緑のダム北相模についても、過分なご紹介をいただきました。詳しくは「やまなみ五湖ナビ」で検索して、特集記事をご覧ください。甲州道中の記事以外にもぜひご覧下さい。神奈川県の水源地全域の歴史から景観まで、沢山情報が盛り込まれています。

ところで「やまなみ五湖」をご存知のない方は？……。嵐山へのダムを過ぎ変電所の近くに、立派な休憩所をご存知ですね。これこそ「やまなみミニパーク」で、「水源地域交流の里づくり事業」の前身である「やまなみ五湖ネットワーク事業」の一つです。そればかりか、相模湖駅前の観光協会の建物までの、屋根付きの歩道やその先の、「空を泳ぐお魚公園」（実は「相模湖ふれあいパーク」と呼ぶそうです）もそうです。

土地水資源対策課はその名のとおり、水源を守る各種の事業がメインですが、当会がボランティア基金事業で神奈川県と協働しており、そこでも土地水資源対策課が協働相手の1セクションとなっています。また、さらに先ほど述べた推進協議会の事務局として、水源地域の特産品である「やまなみグッズ」の販売促進など、水源地域の活性化にもご支援をされています。今後ともよろしくお願いします。

本陣会議：甲州古道・夢街道（国交省・相武事務所）

このところ、古道ルートをJRや国交省の作ったマップを手に歩く団体が急速に増えている。6月10日、相模湖商工会・会議室に関係者14人が集まって、今期の活動計画を相談した。相武事務所によると今期は、道路特定財源問題が表面化し、予算が取りにくくなっており未だ、計画が立てられないそうである。「国交省・夢街道プロジェクト」に期待することが大きいだけに残念な気がする。国交省には、停滞した部分は、八王子市やJR東日本ともタイアップする事で埋め合わせて、積極的に進めて欲しいと強く要望を出した（石村報告）。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと……………
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称：特定非営利活動法人緑のダム北相模

事 務 局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人：NPO 法人緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03-3411-1636

H P：http://midorinodam.jp

E-mail：info@midorinodam.jp

協働団体：神奈川県（企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県央地域県政総合センター森林課）、セブニーレブンみどりの基金、（財）オイスカ

ご支援の団体：WWF・japan, イオン財団、神奈川建具協同組合、東急コミニティ。